

平成26年 5月 25日

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめての一步”部門」

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提 案 名	「多文化映画祭 in なごや」の開催等を通じた多文化共生理解促進		
団 体 名	特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海		
提案の活動を行う地域	名古屋市中区		
提 案 の 内 容	1. 多文化映画祭企画運営会議の開催 (目的)「多文化映画祭 in なごや」(仮)の企画詳細を検討し運営を担う。また、この過程を通じて、委員の多文化共生理解を深める。 (内容)・市民から公募で運営委員を募る(国籍不問) ・上映作品の選定、映画監督等への交渉、運営の役割分担等の決定 ・事前の広報、事後の報告等の検討と実施 2. 「多文化映画祭 in なごや」(仮)の開催 (目的)日本・外国双方の文化習慣や、在日外国人・海外在住の日本人にまつわる映画の上映等を通じて、参加者の多文化共生理解を促進する。 (内容)・映面上映 ・監督トークショー ・参加者との交流会 3. 映画祭プレイベント「グローバル人財公開座談会」の開催 (目的)帰国子女や国際結婚、在日外国人等、2つ以上の文化・言語環境で育った“外国にルーツをもつ若者”(高校生・大学生・若手社会人等)の現状を社会に発信し、地域のグローバル化を考える契機とする。 (内容)・座談会メンバーの選定 ・座談会の開催 ・座談会の報告(媒体:web、紙面等)		
活動期間	平成26年4月～平成27年3月	助成金交付申請額	40万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か ・工事を伴う活動の場合、公益性、公共性のあるものか
(提案活動の必要性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。 ・H24 年末現在、名古屋市には約 6 万 4,000 人の外国人が暮らしており、総人口に占める割合は 2.8%と全国平均(1.6%)を大きく上回る外国人集住都市である。とりわけ名古屋市中区における外国人比率は 9.3%と、東京都新宿区に次いで全国 2 番目に高い割合である。 ・名古屋市は H23 年度に『名古屋市多文化共生推進プラン』を、翌年度に『名古屋市多文化共生推進プラン実施計画』を策定し、多文化共生社会づくりに取り組んでおり、行政のみならず市民活動による取組みの充実も期待されている。 ・H22 年度『名古屋市外国人市民アンケート調査結果報告書』によれば、日本人との関係は「あいさつをするぐらいである」が最も多く(52.3%)、接する機会がなかったり、言葉を交わすことがない人も含めると 65%を超え、その理由として多くの人が「付き合うきっかけがないから」だと答えている。 ・H25 年度『第 1 回市政アンケート(調査結果)』によれば、日本人・外国人市民間のトラブル発生等の要因として「お互いに文化・習慣・宗教の違いを認識・理解していないため」が第 1 位となっており、住民間の理解促進が最重要課題となっている。 ・以上のことから、本事業を通じて日本人・外国人市民の相互理解を促進することは、市のまちづくりの方針に即したものであり、地域の住み環境づくりに大きく貢献するものと考えます。 ・また、本事業の運営の一部を市民公募により採用した者や地域の関係団体(区役所、NPO、まちづくりの会、企業等)と共に行い、地域連携を高めていく。	
審査基準② 独創性	・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・多文化共生をテーマに掲げた住民参加型の映画祭は、県内初の試みである。 ・映画祭の企画運営等を通じて、多文化共生の担い手育成を行う。 ・1 つの国を取り上げた単発の上映会ではなく、100 ヶ国以上の人が暮らす名古屋市の特色を活かした、多国籍・長期間(約 1 ヶ月)の上映会である。 ・映画という敷居の低いツールを用いて、日頃あまり多文化共生や外国人に関心の低い層への参加を促すものである。 ・広報には、外国人が経営する飲食店・雑貨店へのポスター掲示や外国語のフリーペーパー等エスニック・メディアを活用する。 ・映画祭の実施期間を「あいち多文化共生月間」である 11 月に行い、県内各地の取り組みとあわせて多文化共生理解促進の相乗効果を図る。	
審査基準③ 実現性	・提案内容が具体的にになっているか ・自己資金を含め、活動内容や資金計画などは妥当か
時期	活動内容
平成 26 年 4 月 5 月 6 月 7 月 8 月	多文化映画祭上映候補作品探し、グローバル人財公開座談会参加候補者探し ↓ 「多文化映画祭 in なごや」企画運営委員公募・選定 第 1 回「多文化映画祭 in なごや」企画運営会議 第 2 回「多文化映画祭 in なごや」企画運営会議、上映作品選定等

9月	第3回「多文化映画祭 in なごや」企画運営会議、広報開始
10月	プレイベント「グローバル人財公開座談会」開催
11月	「多文化映画祭 in なごや」開催
12月	第4回「多文化映画祭 in なごや」企画運営会議、ふりかえり・まとめアンケート集計、報告書作成等
平成27年1月	↓
2月	↓
3月	報告書提出

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

工 事 目 に ○	活動項目	内訳		金額(円)
	1. 多文化映画祭企画運営会議の開催	旅費交通費	交通費(監督との打ち合わせ等)	10,000
		諸謝金	映画祭チラシデザイン謝礼金	20,000
		印刷製本費	映画祭チラシ(全体)1500枚	7,280
			映画チラシ(個別)10本×500枚	40,000
			※1セット(100枚)800円	
	2. 「多文化映画祭 in なごや」(仮)の開催	賃借料	映画上映料(10本)	300,000
			会場代(10箇所)	30,000
		諸謝金	監督謝礼金(3名分)	60,000
		旅費交通費	監督交通費(3名分)	50,000
		消耗品費	文具等	5,000
	3. グローバル人財座談会(仮)の開催	賃借料	会場代	3,000
		諸謝金	ゲスト謝礼金(3名分)	15,000
		旅費交通費	ゲスト交通費(3名分)	6,000
計		都市センター助成金	400,000円	
		自己資金(注)	146,280円	546,280円
「提案したまちづくり活動に係る経費」のうち工事にかかる経費				円

(注) 自己資金には、他の助成金等を含めることはできません。

審査基準④ 発展性	- 今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか - 助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。) - 本事業の実績をもとに、次年度以降はより多くの市民や団体等に連携・協働をはたらきかけることができる。 - 本事業を通じて一連のプログラム開発・運営体制構築を行い、次年度以降の開催のひな形ができる。これをもって、市内他区での開催へとつなげる。	
審査基準⑤ 活動実績 と主体性	- 提案内容につながる地域での活動実績を有しているか (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。) - 具体的にどんな熱意を注いでいるか - 工事を伴う活動の場合、自ら主体となって工事を行い、継続的に維持管理する能力があるか
※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。 団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。 当法人は、東海地域の多文化共生社会の形成に寄与することを目的として2008年に設立した非営利団体である。これまで、延べ300を超える自治体や国際交流協会、NPO、青年会議所、企業等と連携・協働し、事業を実施してきた。2012年には(社)日本語教育学会が主催する「日本語教育国際研究大会 名古屋2012」において多文化映画祭(別添チラシ参照)の企画運営に協力し、1日で260余名の一般参加を得た。映画鑑賞を入口に直接日本人と外国人が触れ合い語り合う機会をつくり、相互理解を通じて名古屋の多文化共生を推進する。	